

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和3年 3月15日

事業所名:みらいりんく糸満

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		適切な広さを確保できている。	
	2	職員の配置数は適切である	○		適切な配置を行っている	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		・手すりの設置 ・ジョイントマットを敷いている ・歩行が安定しない子どもは必ずスタッフが一緒に行動している。	事業所の構造上、全てをバリアフリーにすることはできない為、子ども達の安全面に気を配っていきます。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		日々、清掃、消毒を行っている。	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		朝の朝礼を通して、支援内容の確認や改善に繋げている。	必要に応じ、就業後や朝礼以外で情報共有を図っていきます。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		送迎時や、連絡帳などにより保護者の意向等を把握し改善に繋げている。	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		評価表は、保護者へ郵送している。	・ブログや会報(みらいりんく通信)にも掲載したいと思います。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○			今後検討していきたいと思ます。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		内部研修の開催や、外部研修へも参加している。	
	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		・支援計画を作成する際には、職員で話し合い客観性を分析するようにしている。	・支援計画の更新の際は、アセスメントを適切に行ったうえで、職員が意見を出し合い、子どもと保護者の課題やニーズを客観的に分析するようにしていきます。
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		スキルリスト(学習・身辺自立・ソーシャルスキル・ITリテラシー・余暇・性・進路キャリア)を利用している。	・今後もスキルリストに沿って、子どもの適応行動を把握していきます。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
適切な支援の提供	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○			
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○			
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		スタッフで話し合い、活動プログラムの立案や改善を行っている。	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○			・4月と9月に活動プログラム立案の話し合いをしていますが、必要に応じ話し合いを行っていきたいと思います。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ合わせて児童発達支援計画を作成している	○		適正に応じた支援、活動を行っている。	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		・朝礼で、支援内容の確認や情報共有を行っている。 ・スタッフ間でリーダー制をとり、リーダーを中心にその日の活動を行っている。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		当日、支援の振り返りができなかった場合は、翌朝の朝礼で前日の振り返りを行っている。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		利用者の様子を支援記録に記し、共有を図っている。	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		定期的に会議の場を設け、計画の見直しを行っている。	
	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		適切に参画している。	
22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○				
23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている				現在、医療的ケアが必要な利用者がいないが、対象児が利用する際には体制を整える予定です。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
関係機関や保護者との連携	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている				現在、医療的ケアが必要な利用者がいないが、対象児が利用する際には体制を整える予定です。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		担当者会議にて情報共有や連携を図っている。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		担当者会議にて情報共有や連携を図っている。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		○		個人的な繋がりのある資格者や他事業所に助言を頂くことはあるが、専門機関への助言や研修を積極的に連携を図っていききたい。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある		○		コロナ禍で交流の機会を設けることができなかったが、今後、利用者の負担にならないように心掛けつつ、交流の機会がもてるよう工夫していききたいと思います。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している		○		協力依頼があれば、積極的に参加していききたい。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		日々の連絡帳や送迎時に保護者へ子どもの様子を伝え、情報共有を心掛けている。	
保護者	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	○		保護者の悩み事に対し対応方法等を共に考え、アドバイスできるよう心掛けている。	・案内するだけでなく、保護者が研修を受けられるよう支援していききたいと思います。 ・ペアレントトレーニング研修を、3月末受講予定です。
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		丁寧な説明を心掛けている。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○			支援計画の内容が、ご理解頂けたかの確認を丁寧に行いたいと思います。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○			
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		周年感謝祭やゆんたく会を開催している。	2020年度は、コロナ禍で開催することができなかったが、新型コロナウイルス感染症が収束し安心できる状況になれば、保護者会(ゆんたく会)や周年祭を再開したいと思います。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
への説明責任等	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○			
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		適宜、ブログにて発信している。	・ブログは適宜更新し、会報(みらいリンク通信)を定期的に発行できるようにしていきたいと思ます。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○		書類の管理や守秘義務を徹底している。誓約書を書いている。	
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○			・2020年度は、コロナ禍で地域行事の中止が相次ぎました。地域行事が再開した際には、参加したいと思ます。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○			
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		年に2回避難訓練を行っている。	2020年度、2回目の避難訓練は3月中旬～下旬に予定。今回は、ライフジャケットを着用し避難予定です。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		保護者への聞き取りや、緊急個人カードを作成し情報共有を行っている。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている				現在、医師の指示書が必要な利用者はいないが、対象児がいる際は、指示書に基づき対応します。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している		○		・ヒヤリハット事例集も記録が、疎かにならないよう記載方法を工夫します。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		研修会に参加し、徹底している。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している				

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。